

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月 13 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2771200538		
法人名	有限会社 シルバーケア		
事業所名	グループホーム 春日苑 田尻		
所在地	大阪府泉南郡田尻町吉見384番地 (電話) 072-465-2011		
評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん		
所在地	岸和田市三田町 1 7 9 7		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	

【情報提供票より】 ( 20年11月25日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 10人, 非常勤 9人,	常勤換算15.6人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要 ( 11月 25日現在 )

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護 1	3名	要介護 2	8名		
要介護 3	2名	要介護 4	3名		
要介護 5	2名	要支援 2	0名		
年齢	平均 84.05 歳	最低	72 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	熊取ファミリークリニック・浜西歯科医院・泉南西出病院
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム春日苑 田尻」は南海吉見ノ里駅から徒歩5分の所にあり、周囲はのぞかな田園風景が広がる静かな環境である。鉄骨平屋建ての建物は天井が高く開放感があり天窓から差し込む明かりと中庭にあるオープンテラスから差し込む採光で穏やかな居心地の良い場所を提供している。理念はわかり易い言葉で掲げ、利用者の尊厳と、その人のペースで過ごしていただくことを大切に取り組んでいる。管理者はサービスの質の向上のために、働き易い職場作りと職員体制を手厚くし、利用者に出る機会を増やす事で笑顔を多く引き出せるよう取り組んでいる。また、協力医療機関の医師も在宅医療に対して理解が深く緊急時の対応、職員からの相談を含め協力体制が確立されている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での主な改善課題は①全職員での評価の取り組み②職員を育てる取り組み③ケアカンファレンスへの家族の参加の呼びかけであったが、全ての項目に対し改善に向け努力しているが、職員を育てる取り組みの中で、研修計画の立案と内部研修の記録の充実など更なる改善に期待する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 前回の自己評価を活用し「今後取り組んでいきたい内容」に関しても具体的な取り組みが行われ改善に繋げている。今回、自己評価の取り組みは業務会議等で全職員の意見を抽出し、ユニットリーダーを中心に自己評価票をまとめ管理者と共に協働してつくりあげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には地区代表・民生委員・地域包括支援センター職員・家族代表・利用者・職員等が参加し3ヶ月に一度開催している。会議では、グループホームの活動報告、参加メンバーからの質問や要望など活発な意見交換が出来る会議となっている。出された意見や要望に対し回答や検討報告を行っている。また、協力医療機関の医師を招き講演をしていただくなど意欲的に取り組んでいる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 2ヶ月に一度ホーム便り「わかば」を発行し行事予定や職員紹介、利用者の様子などを掲載している。また、月1回の来訪時に家族の意見を聴取すると共に、1年に一度家族会を開催し、家族と担当職員との個別面談を行い日頃の様子を伝えるとともに、家族からの要望や苦情、意見を積極的に聞き取り、記録に残しサービスに反映させていくよう取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地区会に加入し回覧板等で地域の行事等を把握している。毎年開催される秋祭りでの交流や地域のボランティアも積極的に受け入れ、詩吟や民謡、生け花教室、おやつ作り、遠方への外出支援などを行ない利用者の楽しみごとに繋げている。更に地域の方々との積極的な交流に期待したい。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「プライバシーを守り一人ひとりを尊重しましょう」「利用者の立場に常に身をおいて考えましょう」「家庭的な環境づくりを考えましょう」「地域との交流を図りましょう」を理念とし、利用者一人ひとりの尊厳と、その人のペースで過ごしていただくことを大切に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関に掲示している。3ヶ月に一度の全体会議や勉強会、月1回の業務会議で理念や接遇、言葉遣いなどを話し合い職員の周知に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区会に加入し回覧板で地域の行事などを把握している。毎年秋祭りには櫓を曳いて苑まで来て頂き交流を図っている。地域のボランティアも積極的に受け入れ、詩吟や民謡、生け花教室、おやつ作り、遠方への外出支援など行い、利用者の楽しみごとに繋げている。更に地域の方々との積極的な交流に期待したい。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価結果を踏まえ主な課題について検討し改善に向け努力している。また、自己評価を活用し「今後取り組んでいきたい内容」に関しても具体的な取り組みを行っている。昨年度の課題であった、全職員での自己評価への取り組みは業務会議等で全職員と話し合い、ユニットリーダーを中心に自己評価票をまとめ管理者と共に協働してつくりあげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は3ヶ月に一度開催し、議事録を作成している。グループホームの活動報告、参加メンバーからの質問や要望など活発な意見交換が出来る会議となっている。出された意見や要望に対し回答や検討報告を行っている。また、協力医療機関の医師を招き講演をしていただくなど意欲的に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町主催の地域ケア会議、地域包括支援センター（特別養護老人ホーム）主催の会議などに参加し、運営についての報告や意見交換を行っている。町内唯一のグループホームということもあり、相談や報告など町職員との連携を保ちサービスの質の向上に向け取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回利用料の支払に家族の訪問があり、その際に預かり金の収支報告を行なっている。居間の壁面に沢山の行事写真を貼り家族とのコミュニケーションに繋げ、利用者の様子や状況を報告している。また、2ヶ月に一度ホーム便り「わかば」を発行し、行事予定や新しい職員紹介、利用者の様子などを掲載している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の来訪時に家族からの意見を聴取すると共に、1年に一度家族会を開催しバーベキューを楽しみながら親睦を図っている。食事会終了後に家族と担当職員との個別面談を行い、日頃の様子を伝えるとともに、家族からの要望や苦情、意見を積極的に聞き取り、記録に残しサービスに反映させていくよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職から来る利用者へのダメージを考慮し、離職を最小限に抑える為に職員の働きやすい環境づくりに努めている。45分の休憩時間の確保、有給休暇の保障、何よりも個別ケアや安心して外出支援を行なえるよう日勤帯の職員人数を手厚くしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは新しく入職したユニットリーダーと管理者が権利擁護、終末期ケア、地域の中で生き生きと生きるケアなどに参加し報告書を作成している。外部研修の報告は朝礼時や会議等で全職員に行なっている。また、今年度は医療に関する勉強会にも力を入れているが資料の保存に留まり研修記録として残していない。新人研修は1ヶ月間研修期間を設け働きながら指導を受けている。	○	計画的な研修計画を立てると共に、内部研修や勉強会においても資料の保存だけではなく研修記録を残すことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内唯一のグループホームであり、大阪府認知症高齢者グループホーム協議会に加入し、研修会や会議に参加している。他のグループホームの現状やケアに対する取り組み方を参考にし、サービスの質の向上に役立っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が納得して利用いただけるまで体験利用を通じてグループホームに馴染めるよう支援している。体験利用のままスムーズに入所に至っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の中に4名の男性職員がおり、はじめ不得意な調理も利用者に教わりながら今では楽しく一緒に行っている。利用者一人ひとりの特技や趣味を活かしながら力量に応じて発揮できる場面作りに心がけ支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族の希望、入居までの暮らしや心身の状況などを聴き取り記録している。また、毎年開催している家族会での個別懇談会では苑の生活状況、心身状態、変化などを伝えたり、今までの生活歴、性格などの情報を聴き、面談記録にまとめ新しい情報の蓄積に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各ユニットで開催している業務会議の中で個別のケアカンファレンスを行ない状況の把握に努めている。また、ケアカンファレンス記録や、ケアチェック表、要約表を参考に、担当者会議を開催しケアの方法を検討しながら介護計画書を作成している。記録は詳細に記載し、利用者の情報を職員間で共有できるシステムを構築している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況を支援経過に記載し把握している。評価、見直し時にサービス担当者会議を開催し、新たに利用者、家族の希望や意向を共有し、その人らしく暮らせるための介護計画の見直しを行っている。利用者が退院した際や急な変化が生じた場合には家族も含め担当者会議を開催している。また、業務会議で退院後のサービス内容を検討し、職員間で情報の共有を図っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じて通院時の送迎や、要望に応じた外出など個別に日程を調整して対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診を支援している。今年からは在宅医療に熱心な協力医療機関の医師により月2回の往診と365日毎日電話連絡をいただき連携を図っている。利用者18人中13人が受診を希望している。受診状況を記録し、家族には面会時や電話にて説明を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した終末期のケアには利用者、家族、職員、医師の協力などが大きく関係するが、希望すれば重度化の対応に関する指針に沿って、看取することも必要と認識している。看取りケアについての同意書や終末期に関しては利用者や家族の希望を記録し医師と職員で把握している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを尊重するという理念を理解し、利用者への言葉がけや、対応に心がけ、研修をしている。個人情報の取り扱いについては、職員に入社時誓約書の規則の遵守を徹底指導している。個人記録に関しては鍵の掛かる書庫に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の業務を介護中心の決まりや職員の都合を優先するのではなく、その人らしく生きていくため、一人一人の出来ることは自立を促し、手助けや、見守りをして、ひと時の楽しみを作り上げられるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の楽しみの一つである食事は家庭料理を中心に献立をしている。さらに、選択メニューの採用や外食の機会も多く取り入れている。また、食材の買物、調理、配膳、下膳、おしぼり巻き、後片付けなど簡単な作業には数人の利用者が参加し職員と一緒にやっている。職員は利用者と共に食べ、さりげなく介助を行ないながら団欒を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回、曜日も決めているがいつでも対応が可能である。浴室は一般家庭と同じ広さで一人ひとり介助を受けながら入浴している。出来るだけ同性介助の配慮を行っているが、無理な場合には事前に利用者の了解を得て支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活のなかで、その人の特技を活かしながら食事作り、掃除、洗濯物たたみ、隣のユニットに連絡に行く方など能力に応じて役割を担うよう支援している。楽しみごととして生け花、民謡などの活動や季節ごとの楽しい行事を企画している。今年は海遊館へ観光バスを利用し利用者全員と家族、ボランティアも参加し楽しく過ごせる支援に心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員の増員で、天気の良い日には、車椅子や徒歩で近くを散歩したり、車で喫茶店、スーパーマーケット、公園、漁港に買い物に行くなどドライブを楽しみながら外出する機会を増やしている。希望があれば一人でも買物の支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中鍵をかけず自由に入出りが出来、ユニット間も自由で開放的である。玄関にはセンサーチャイムを設置するなどの工夫をしている。居室の鍵は中から施錠でき、利用者の意志に任せている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力、指導のもとに年2回の消防訓練を行っている。また、田尻町の防災訓練にも職員と数名の利用者が参加し避難訓練を実施している。消火器は各ユニットに設置し、火災受信機や火災通報専用電話を取り付けるなど対策を講じている。運営推進会議の中で消防訓練を行なうなど地域への理解にも繋げている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量は排泄状況とともに、チェック表で把握している。嚥下障害のみられる利用者にはトロミ食、刻み食など個別に支援している。職員は水分摂取の大切さを理解し、1日1300mlを目安とし食事、覚醒時水分補給などの支援している。さらに、飲み物以外でも寒天を利用しレモン水でゼリーを作るなど工夫している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関ホールや廊下は広くゆったりしており、2つのユニットの間には日当たりの良いオープンテラスがある。テラス中央には電飾で飾られた大きなクリスマスツリーを職員が手作りして、設置している。居間や廊下の天井も高く天窓が有り、圧迫感がなくゆったりした中で時を過している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの家具や、ベットが持込まれている。和室は4室あり布団を押入れに片付け広々と使っている利用者もいる。また、居室の壁には家族写真や若い頃の思い出深い写真、運動会での賞状などを貼り、それぞれ個性的な居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNE Tに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。